

論文内容要旨 (乙)

論文題名 Oral health in the Japan self-defense forces – a representative survey

掲載雑誌名 BMC Oral Health (Vol. 11 Issue 2 2011)

歯科補綴学 工藤 有加

目的:口腔関連 QoL は口腔健康状態を評価する包括的患者立脚型アウトカムとして広く認知されている。また同時に、歯の欠損状態や義歯の使用状況は、口腔の健康状態を知るための重要な情報である。本研究の目的は、これまで調査の対象となっていなかった日本自衛隊の集団を対象とし、欠損歯数・義歯の使用状況・口腔関連 QoL を調査し、その関連性を分析することである。

方法:日本自衛隊勝田駐屯地において実施される健康診断受診者のうち、本研究に参加の同意を得られた 911 人を被験者とした。被験者の欠損歯数(0本,1本,2本以上に分類)と、義歯の状態(可撤性床義歯の有無)を一人の歯科医師により調査した。口腔関連 QoL の評価には、Oral Health Impact Profile の日本語版(OHIP-J)の短縮バージョンである OHIP-J14 を用いた。欠損歯数と OHIP-J14 間でピアソンの相関係数を、可撤性義歯の有無と OHIP-J14 間で点双列相関係数を求め、関連性を統計分析した。また、性別と、年齢(4 グループに分類)間で相関分析を、可撤性床義歯の有無間で OHIP-J の平均値を測定し T-TEST を行った。

結果:

(被験者の特徴) 被験者の平均年齢は 35.7 歳で、全体の 93%が男性であった。(歯数と義歯の状態) 被験者の欠損歯数は少なく(平均 0.85 本)、全体の 28%が 1 本以上の欠損歯を持ち、全体の 4%が可撤性床義歯(総義歯を含む)を使用していた。被験者の大多数(74%)はブリッジも可撤性床義歯も使用していなかった。欠損歯数や可撤性床義歯の有無と年齢には強い相関があることがわかった。

(口腔関連 QoL) 被験者の OHIP-J14 のスコアの平均値は、 4.6 ± 6.7 (95%信頼区間 4.1–5.0)であり、口腔関連の機能障害をあまり感じてはいないと考えられた。

〈口腔内の物理的な特徴(歯数・可撤性床義歯の有無)と口腔関連 QoL の関連性について〉 欠損歯数と OHIP-J14 の相関は柔らかい曲線で示され、統計的に有意な相関を示した(局所重み付け曲線:Lowess,ピアソン相関分析: $r=0.22$, $p<0.001$)。可撤性床義歯の有無間で、OHIP-J14 の平均値に有意差があった(OHIP-J14 値:可撤性義歯有=8.6,可撤性義歯無=4.4, $p<0.001$)。

結論:日本の一般集団と比較して,日本自衛隊の集団は,良好な口腔の健康状態を示した.2つの身体的な口腔の健康状態(欠損歯数・可撤性床義歯の有無)は,口腔関連 QoL と関連性があった.